

# 2011年度入試 直前動向分析

大学入試センター試験まで残り1ヶ月半となり、今年も本格的な入試シーズンを迎えた。

2012年度センター試験の変更を控え、選抜方法の変更は小康状態となっているが、来春入試では、北海道大の総合入試の導入や医療系学部・学科の新増設といった動きがみられるほか、昨年に引き続き、全国で約90名の医学科定員の増員が予定されている。

ここでは、10月に実施した第3回全統マーク模試の志望データをもとに2011年度入試の動向を探ってみる。

## 国公立大学編

### ◆センター試験志願者数は3年連続の増加に

はじめに、大学入試センターより10月14日に公表された受付最終日時点の大学入試センター試験（以下「センター試験」）の出願状況を確認しておこう。出願者総数は、3年連続で増加しており、前年の同時点より8,657人（1.6%）増の535,063人となっている【表1】。内訳をみると、現役生の志願者数は、高卒者数で約1万人減少するものの、昨年より7,933人（1.8%）の増加となった。これに伴い、志願率は前年の40.1%からさらに上昇する見込みである。ここ数年減少の続いていた既卒生等の数も2010年度入試が厳しかった影響から、前年より724人（0.7%）の増加となっている。

なお、前年度の確定志願者数は、この時点から2万人ほど増加しており、今年度も同程度の増加が見込まれ、最終発表では、56万人前後に落ち着くものと思われる。

### ◆国公立大は前・後期日程とも志望者増 公立大、難関大、地方の地元大で特に顕著

ここからは第3回全統マーク模試の志望データをもとに、国公立大の志望動向をみていこう。

【表1】高卒者数とセンター試験志願者数推移

年度	高卒者数	受付最終日志願者数			
		全体	現役生	(志願率)	既卒生等
2010年度	1,070,585	526,406	429,651	40.1%	96,755
2011年度	1,060,742	535,063	437,584	41.3%	97,479

※高卒者数は学校基本調査（速報版）より（2011年度は河合塾推計）  
※志願者数は受付最終日17時現在の数値

【表2】国公立大志望動向：日程別（第3回全統マーク模試より）

	昨年			今年			前年比
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	
前期	172,352	181,554	105%				
後期	80,550	84,747	105%				
中期	11,678	12,698	109%				

国公立大全体の志望者は、前期日程で前年比105%と増加しており、若干ではあるが、模試受験者数の増加率（同104%）を上回った【表2】。今春入試に引き続き、安定した人気を維持しているといえる。一方、後期日程では、近年は日程の廃止・縮小による志望者数の減少が続いていたが、来春入試では、後期日程を新規実施したり、募集人員を拡大する大学がみられる。全体の募集人員が19,938人→20,048人に増え、本模試の志望者数も前年比105%と増加に転じている。山梨大の医学部医学科は前期日程を実施せず、後期日程の募集人員を70名→80名に増員し、前年比132%と志望者を集めた。

国立大と公立大を比較すると、国立大の前年比105%に比べ、公立大は同108%と3ポイントほど高い【表3】。不況による影響で学費が安い国公立大が人気となり、その中でもセンター試験の科目数が比較的少ない公立大での志望者数の伸びが著しい。

【表4】は国公立大の志望者を、旧帝大を中心とした難関10大学とそれにつづく準難関・地域拠点10大学、その他の大学に分類し、それぞれの志望者数の前年比を比較したものである。前期日程では、難関10大学（前年比106%）とその他の大学（同106%）の両極で志望者が増加している。就職難から少しでも就職に有利な感のある難関10大学へ、不景気から学費が安く入りやすい地方の地元国公立大学へとといった2つの動きが起きているようだ。

【表3】国公立大（前期）志望動向：国立・公立別（第3回全統マーク模試より）

	昨年	今年	前年比
国立大	138,747	145,424	105%
公立大	33,605	36,130	108%

【表4】国公立大志望動向：大学グループ別（第3回全統マーク模試より）

	前期			後期		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
難関10大学	47,535	50,556	106%	13,460	14,971	111%
準難関・地域拠点10大学	34,793	35,816	103%	14,700	14,859	101%
その他大学	90,024	95,182	106%	52,390	54,917	105%

難関10大学は、【表5】参照  
準難関・地域拠点10大学は、筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、首都大学東京、大阪市立大

## ◆北海道大の入試制度改革の認知進む

【表5】は難関10大学について日程別に志望者の前年比を表したものである。

北海道大では、2011年度から前期日程で従来の学部入試に加えて、「総合入試」を新たに導入する。理系学部では募集人員の7割を総合入試で募集し、理・工・農・薬学部では学部別の入試が行われない。第2回全統マーク模試時には、一部の受験生には総合入試がまだ理解されておらず、学部名の表示された後期日程を記入する受験生が多く見られた。しかし、本模試と前回模試の前年比をみると、前期日程で前年比が96%→104%、後期日程で同164%→125%となり、入試制度改革の認知度が進み、前期日程と後期日程の前年比の差が縮まっている。また、前・後期日程問わずに記入した者の実人数は前年比114%と大きく増加しており、北海道大自体の人気は上昇しているといえる。

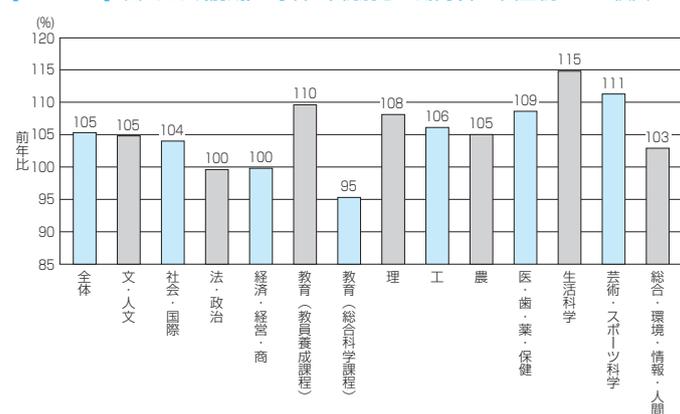
東京工業大（前年比110%）は、後述する理工系人気の影響を受け、志望者を増やしている。第1類を除く全ての類で前年を上回り、とくに女子の志望者の増加が著しく、3割増となっている。

一橋大は、法学部（前年比93%）でやや志望者を減らしているものの、社会学部（同124%）と商学部（同123%）で増やしており、大学全体では前年比111%となった。理系学部で多くの志望者を集めた大阪大は前年比112%となった。今春入試で人気の高かった京都大は、前年比122%となった理学部を筆頭に志望者を増やしている学部が目立ち、大学全体では同106%となった。

【表5】 国立難関10大（前期）の志望動向（第3回全統マーク模試より）

	昨年	今年	前年比
北海道	4,434	4,615	104%
東北	4,407	4,500	102%
東京	6,776	6,996	103%
東京工業	1,726	1,895	110%
一橋	2,353	2,614	111%
名古屋	7,151	7,379	103%
京都	5,239	5,543	106%
大阪	5,978	6,688	112%
神戸	6,599	7,074	107%
九州	2,872	3,252	113%

【グラフ6】 国公立大(前期) 学部・系統別志望動向(第3回全統マーク模試より)



【グラフ6】・【表7】の理、工、農、薬学系統は北海道大(理・工・農・薬学部、総合入試理系)を除く

## ◆資格系学部・学科の人気続く文低理高の傾向

続いて学部系統別の志望動向を見ていこう【グラフ6・表7】。大きな傾向として「資格系人気」と「文低理高」が強く感じられる状況となっている。

文系では、「法・政治」（前年比100%）・「経済・経営・商」（同100%）といった社会科学系が前年並の志望者となり、「教育（教員養成課程）」が前年比110%と2年連続で志望者が増加している。北海道教育大（前年比129%）、東京学芸大（同116%）、愛知教育大（同111%）、広島大（同122%）といった各地域の拠点大学を中心として、全国的に堅調な人気を示している。その一方で、同じ教育系の「教育（総合科学課程）」は前年比95%と志望者を減らしており、対照的な結果となった。

前年比115%となった「生活科学」系は、どの分野においても国公立大全体の前年比平均を上回っている。今春入試では不景気による就職環境の悪化といった社会情勢が志望に影響を与えていたが、その影響は来春の受験生においても続いており、「教育（教員養成課程）」「生活科学」系といった資格系の人気の高まりが感じられる。

理系では、「理」「工」「農」「医・歯・薬・保健」学系の志望者が5～9%増となっており、理系全体の人気上昇が感じられる。「理」学系は、ここ数年、日本人のノーベル賞受賞者が輩出され、基礎研究分野が改めて評価されていることもあり、人気が高まっている。とくに「数学・数理情報」（前年比112%）、「物理」（同112%）、「生物」（同112%）の分野で志望者の伸びが目立っている。「工」学系ではすべての分野で前年の志望者数を超え、「農」学系でも「環境科学・経済システム」（前年比92%）を除

【表7】 詳細分野別志望動向の抜粋（第3回全統マーク模試より）

学部系統	詳細分野	前期日程		
		昨年	今年	前年比
理	理学系一括	2,117	2,249	106%
	数学・数理情報	1,316	1,479	112%
	物理	1,267	1,425	112%
	化学	1,867	1,925	103%
	生物	1,430	1,596	112%
	地学・他	777	810	104%
工	工学系一括	3,042	3,164	104%
	機械・航空	8,524	8,681	102%
	電気・電子	4,911	5,211	106%
	通信・情報	5,616	6,302	112%
	建築	2,788	2,941	105%
	土木・環境	2,359	2,507	106%
	応用化学	3,280	3,506	107%
	材料・物質・資源	3,077	3,136	102%
	生物工	1,103	1,253	114%
	経営・管理・船舶・他	1,557	1,757	113%
農	農学系一括	1,274	1,312	103%
	生物生産・応用生命	5,794	6,290	109%
	環境科学・経済システム	1,790	1,653	92%
	獣医	1,300	1,316	101%
	酪農・畜産	298	346	116%
	水産	769	866	113%
医・歯・薬・保健	医	10,490	11,445	109%
	歯	611	649	106%
	薬	2,702	2,998	111%
	看護	8,716	9,649	111%
	医療技術	5,380	5,552	103%
保健・福祉	207	227	110%	

いた分野で前年を上回っている。来春、改組の行われる**横浜国立大**の理工学部でも前年比112%と多くの志望者を集めている。

「医・歯・薬・保健」学系（前年比109%）では、今春入試でも人気の高かった「看護」（同111%）の志望者増加が著しい。難関10大学をはじめ、地方国公立大においても志望者の増加が目立っており、資格の取得や地元での就職が見込めるといった点から、女子を中心に高い人気となっている。「医」は、近年、募集人員増が続いていたにも関わらず、ここ3年間、志望者数は横這いで推移していた。来春入試の受験生においては低学年時から情報を見聞きしていたことから周知も進んでおり、前年比109%と志望者が急激に増加した。センター試験の理科の必須科目数を3→2科目へと変更する**大阪市立大**では、来春入試より負担減になることから、一般枠・地域医療枠・大阪府指定医療枠をあわせた前年比は141%と大幅に志望者が増加し、難化が予

想される。また、北海道大が後期日程を廃止することにより、**旭川医科大**（前年比134%）の後期日程志望者が大きく増加しており、本番入試でも今春以上の志望者数を集めそうだ。

なお、医学科では、2011年度もさらに90名程度の増員が計画されており、過去最大であった2010年度をさらに更新する。現時点では、どの大学で何名増員されるか等の詳細は発表されておらず、今後、学生募集要項やHPにて公表される。医学科志望者は、今後の各大学の情報に注意したい。各大学の最終確定人数は本誌1・2月号でお伝えする予定だ。

以上、国公立大入試の動向について、ポイントとなる点を中心にみてきた。国公立大の志望動向はセンター試験の平均点次第で例年大きく変わる傾向にある。センター試験後の動きについても十分注意したい。

# 私立大学編

## ◆私立大志望者はセンター利用方式を中心に志望者増加

第3回全統マーク模試での私立大全体の志望者数は前年比108%と模試受験者増加率以上の伸びとなっている。方式別の志望者総数をみると、一般方式が前年比107%、センター利用方式が同111%と、今春入試同様、センター利用方式での増加が目立つ。

【表8】は大学所在地区別の志望動向をまとめたものである。都市部、地方ともに志望者が増加しており、いずれの地区もセンター利用方式を中心に志望者が増加している。

## ◆中堅以下の大学群での志望者増加目立つ 都市部難関大も人気回復の兆し

さらに詳しく私立大の志望動向をみていこう。一般方式の志望者数を大学の入試難易度別にみると、ボーダー偏差値50.0未満の大学群での志望者増加が著しいことが分かる【表9】。景気の低迷により確実に大学合格をめざす受験生の心理が働いていることに加え、高校生の就職環境が厳しいために大学進学層

が拡大したことが要因となっているようだ。

【表10】は主要大の志望動向を大学グループにまとめたものである。地元志向の影響を受け、ここ1・2年、志望者の減少が目立っていた最難関グループの「早慶上理」「関関同立」も志望者が増加に転じた。今春入試で志願者が堅調に集まった「MARCH」も引き続き高い人気となっている。しかし、これらの難関大以上に志望者の増加が目立つのが首都圏の「理系9大学」や近畿圏の「産近甲龍」である。その他の地区を見てみると、地区の拠点大でも志望者を集めているが、志望者の増加が目立つのはその下のグループである。

では、主要大について詳しくみていこう。「早慶上理」の志望者数は前年比105%。**上智大**を除き、いずれも前年比106～107%と志望者が増加している。なかでもセンター利用方式で個別試験を廃止する**早稲田大**（国際教養）は志望者が596人→873人と大幅に増加している。**上智大**は大学全体の志望者数は前年並みであるが、聖母大との統合によって開設される総合人間科学部看護学科は前年比154%と大幅に増加している。偏差値57.5以上の成績層の志望者が20人→112人と5倍以上に増えており、難易度も47.5→57.5と大幅アップの見込みである。

「MARCH」の志望者数は前年比106%。今春入試で志願者を最も集めた**明治大**は全学部で志望者が増加しており、今回の模試においても人気が続いている。**法政大**はセンター利用方式を複線化したにも関わらず、前年比102%と微増にとどまっている。

「関関同立」の志望者は前年比106%。今春新設された学部でセンター利用方式を新規実施することから、センター利用方式での志望者が前年比108%と大幅に増えている。グローバル・コミュニケーション学部を新設する**同志社大**は募集人員75人に対し、1,206人の志望者を集めており厳しい入試となることが予想される。

【表8】 大学所在地区別 志望動向（第3回全統マーク模試より）

	一般方式			センター方式			合計		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
北海道	8,869	10,557	119%	8,347	9,675	116%	17,216	20,232	118%
東北	10,310	10,396	101%	5,132	7,850	153%	15,442	18,246	118%
関東(東京を除く)・甲信越	45,731	47,172	103%	23,071	26,182	113%	68,802	73,354	107%
東京	447,746	471,465	105%	179,524	196,390	109%	627,270	667,855	106%
東海・北陸	112,151	122,087	109%	40,086	43,798	109%	152,237	165,885	109%
近畿	157,891	175,707	111%	64,953	72,848	112%	222,844	248,555	112%
中国・四国	13,054	15,191	116%	6,244	7,530	121%	19,298	22,721	118%
九州	18,516	20,636	111%	12,997	15,092	116%	31,513	35,728	113%
全体	814,268	873,211	107%	340,354	379,365	111%	1,154,622	1,252,576	108%

【表9】私立大 難易度別の志望動向（第3回全統マーク模試より）

ボーダー 偏差値帯	志望者数（人）		前年比
	昨年	今年	
70.0～	28,177	30,342	108%
65.0～69.9	62,647	65,647	105%
60.0～64.9	120,454	125,338	104%
55.0～59.9	168,158	174,826	104%
50.0～54.9	181,795	192,993	106%
45.0～49.9	129,223	142,337	110%
40.0～44.9	58,006	66,171	114%
35.0～39.9	53,102	61,604	116%
BF(ボーダー・フリー)	11,516	12,727	111%
ボーダーなし	1,190	1,226	103%
全私立大	814,268	873,211	107%

※ボーダー偏差値帯は前年実態ベース（ないものは予想難易度を使用）  
※数値は一般方式のみ集計

【表10】全国主要私立大 志望動向（第3回全統マーク模試より）

大 学	一般方式			センター方式			合計		
	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比	昨年	今年	前年比
早慶上理	87,878	93,732	107%	27,916	28,085	101%	115,794	121,817	105%
早稲田	41,988	45,629	109%	11,879	11,275	95%	53,867	56,904	106%
慶應義塾	20,729	22,509	109%	3,993	4,030	101%	24,722	26,539	107%
上智	14,594	14,435	99%	-	-	-	14,594	14,435	99%
東京理科	10,567	11,159	106%	12,044	12,780	106%	22,611	23,939	106%
MARCH	128,954	137,395	107%	54,321	57,608	106%	183,275	195,003	106%
明治	37,546	41,586	111%	16,182	18,357	113%	53,728	59,943	112%
青山学院	21,081	22,093	105%	7,573	7,977	105%	28,654	30,070	105%
立教	22,454	22,824	102%	10,313	10,269	100%	32,767	33,093	101%
中央	19,071	20,695	109%	10,512	11,059	105%	29,583	31,754	107%
法政	28,802	30,197	105%	9,741	9,946	102%	38,543	40,143	104%
日東駒専	66,492	69,765	105%	26,627	29,014	109%	93,119	98,779	106%
日本	28,753	30,053	105%	11,992	13,129	109%	40,745	43,182	106%
東洋	18,706	18,814	101%	7,237	7,904	109%	25,943	26,718	103%
駒澤	8,714	9,876	113%	3,548	3,917	110%	12,262	13,793	112%
専修	10,319	11,022	107%	3,850	4,064	106%	14,169	15,086	106%
関関同立	76,678	80,244	105%	38,760	41,705	108%	115,438	121,949	106%
関西	22,048	23,646	107%	8,256	9,135	111%	30,304	32,781	108%
関西学院	16,524	16,234	98%	6,023	6,321	105%	22,547	22,555	100%
同志社	18,647	20,345	109%	9,385	10,078	107%	28,032	30,423	109%
立命館	19,459	20,019	103%	15,096	16,171	107%	34,555	36,190	105%
産近甲龍	35,745	40,240	113%	10,764	13,076	121%	46,509	53,316	115%
京都産業	5,878	6,592	112%	1,681	1,916	114%	7,559	8,508	113%
近畿	15,452	18,289	118%	4,944	6,779	137%	20,396	25,068	123%
甲南	4,898	4,889	100%	1,574	1,517	96%	6,472	6,406	99%
龍谷	9,517	10,470	110%	2,565	2,864	112%	12,082	13,334	110%
北海道2大学	4,528	5,135	113%	3,517	3,925	112%	8,045	9,060	113%
北星学園	1,574	1,714	109%	1,284	1,480	115%	2,858	3,194	112%
北海学園	2,954	3,421	116%	2,233	2,445	109%	5,187	5,866	113%
東北学院	2,984	3,035	102%	1,881	2,298	122%	4,865	5,333	110%
愛知4大学	49,922	52,394	105%	17,523	18,416	105%	67,445	70,810	105%
愛知	8,523	10,265	120%	2,320	2,698	116%	10,843	12,963	120%
中京	11,639	11,613	100%	4,300	4,527	105%	15,939	16,140	101%
南山	13,803	13,683	99%	5,567	5,617	101%	19,370	19,300	100%
名城	15,957	16,833	105%	5,336	5,574	104%	21,293	22,407	105%
福岡2大学	9,742	10,193	105%	6,611	7,819	118%	16,353	18,012	110%
西南学院	2,695	2,657	99%	2,262	2,354	104%	4,957	5,011	101%
福岡	7,047	7,536	107%	4,349	5,465	126%	11,396	13,001	114%

◆私立大も理系、資格系が人気

次に学部系統別の動向を見てみよう【グラフ11】。国公立と同様、全体的に文低理高の状況となっている。文系では、「文・人文(教育)」学系が「教育」の人気により、前年比107%となっているほか、社会科学系の各系統は前年比103～105%と落ち着いている。理系では、「理」「工」「農」学系はいずれも前年より1割以上志望者が増加している。また、国公立と同様、資格系統の人気が高く、医療系や生活科学では大きく志望者を増やしている。

学系の詳細分野を見てみると、「教育」学系は前年比117%。系統人気に加え、私立大ではここ数年教育学系の大学・学部の新増設が相次いでおり、3年連続で志望者数が増加している。青山学院大や関西学院大などの難関大をはじめ、玉川大や岐阜聖徳学園大といった教育系の伝統校でも堅調に志望者を集めている。

2008～2010年度にかけて入学定員が大きく増加した「医」も3年連続で志望者が増加しており、今模試では前年比112%と高い伸びを示している。方式別に見ても、一般方式（前年比110%）、センター利用方式（同120%）ともに増加している。ここ2年ほど易化傾向にあった医学科だが、来春入試は厳しい入試となりそうだ。

大学・学部の新増設が相次ぐ「看護」は志望者の増加も続いている（前年比119%）。教育系と同様、地元での就職が見込めるため、女子を中心に高い人気となっている。また、短大や専門学校においても志望者数が大幅に増加している。この分野は資格取得と密接に関わっているため、学校の種別にこだわらない受験生も多く、激戦が予想される。

◆新設大学・学部の動き

最後に、新設大学・学部の動きをみておこう。学部系統別にみると、昨年へ続き医療系分野での開設が目立つ。2011年度は日本映画大（映画）、京都華頂大（現代家政）、大阪物療大（保健医療）、宝塚医療大（保健医療）、純真学園大（保健医療）の5大学が新設される。なかでも、日本映画大は日本で初めての映画専門の大学となるが、募集人員60人に対し、255人の志望者を集めている。

学部を新設するのは7大学7学部。医療系では人間総合科学大（保健医療）、九州栄養福祉大（リハビリテーション）の2大学で設置される。このほか、女子大初の法学部を設置する京都女子大は堅調に志望者を集めており、今後の志望動向が注目される。

なお、共栄大（教育）、聖泉大（看護）、関西福祉科学大（保健医療）、福岡女子大（国際文理）が認可保留となっている（11月15日現在）。すでに入試概要を公表しているが、変更される場合もあるため、今後大学からの情報に注意が必要だ。

【グラフ11】私立大 学部・系統別志望動向（第3回全統マーク模試より）

